

7 イイジマムシクイ

【飯島虫喰、飯島虫食】〈スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科ムシクイ属〉

指定 昭和 50 年 6 月 26 日 国指定天然記念物(動物)
所在地 (東京都・鹿児島県・沖縄県)
管理者 所在市町

小型のムシクイで、ウグイスとほぼ同じ大きさで全長は約 11.5 ㎝。体色は額、頭上、後頭が灰色を帯びた暗緑色で、額側から後頭まで明瞭な黄白色の眉斑がある。

世界中で日本の伊豆諸島及び屋久島だけで繁殖することが知られている特産種である。伊豆諸島の南部、特に三宅島、御蔵島、青ヶ島では生息密度が高く、照葉樹林から二次林まで広く分布している。しかし、北部では利島を例外として数は少ない。

夏季に渡来して、照葉樹林や二次林で繁殖し、冬季にはフィリピン方面にわたる。その途中、伊豆半島や南西諸島でも観察される。

本土に分布する近縁のムシクイ類センダイムシクイ・メボソムシクイ・エゾムシクイなどとくらべて、この種はいくつかの生態的特徴をもっている。本土のムシクイ類が地面のくぼみに球形の巣をつくるのに対し、この種はそれとは別に、地上 1~3 メートルの枝上や、老木の樹洞中にも巣をかける。つまり、営巣場所を広げているといえる。また、ほかのムシクイ類は一腹に 4~6 卵を産むが、この種は 3~4 卵と少ない。さらに、さえずりにも違いがある。この種独特の鳴き声のほかに、センダイムシクイやメボソムシクイの特徴をも含んでいる。また、地鳴きはむしろエゾムシクイに似ていると思われる。イイジマムシクイは、島嶼型の特徴をもった種とすることができる。

葉群のあいだを忙しく動きまわり、昆虫をよく食べる。ほかに植物の種子や実を食べることがある。